

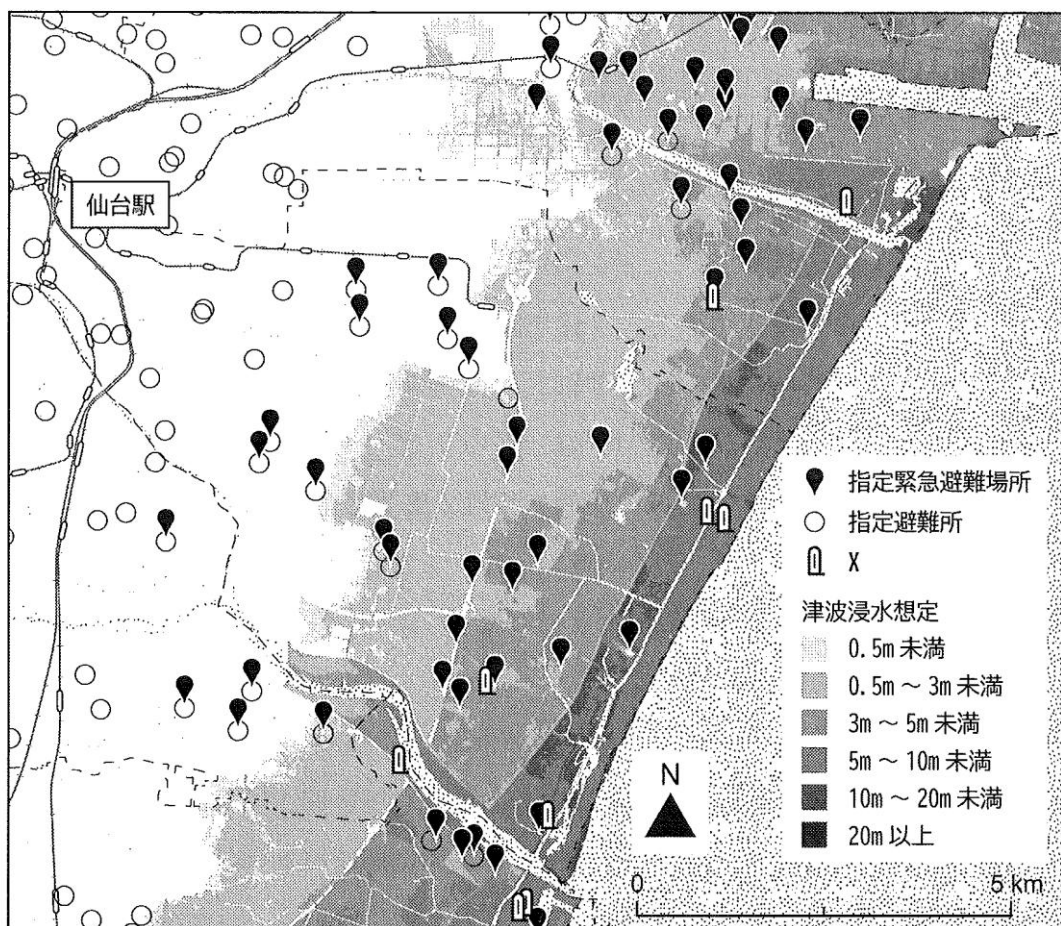
強者の戦略

2026 年度 京大地理 第3問〔問題編〕

今回は 2026 年度の京大の第3問を解説したいと思います。日本における防災を扱っていて、総じて書きやすい問題が並んでいますが、ところどころ書きづらい問題も含まれています。文字数は結構短くて、まとめるのに一苦労するかもしれませんが、ぜひチャレンジしてみてください。

Ⅲ 地理探究問題

日本列島では地震や火山、津波、洪水、土砂災害などの自然災害が多く発生する。防災に関する下の地図(宮城県仙台市周辺)を見て、問(1)～(5)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。



資料：国土地理院ほか

(2025 年のデータ)

強者の戦略

問

- (1) 左ページの地図は、宮城県仙台市周辺の津波による浸水想定と、津波を対象とした指定緊急避難場所、および指定避難所の位置を示したハザードマップである。浸水リスクが高いと想定されている区域にも指定緊急避難場所がみられるが、それはなぜか。災害の特徴と避難場所の役割をふまえて、40字以内で述べよ。
- (2) 地域として自然災害に備えるためには、ハード面とソフト面での準備が必要とされている。津波の場合にはどのような取り組みが考えられるか、ハード面については解答欄①に、ソフト面については解答欄②に、代表的な例をそれぞれ1つ答えよ。また後者に関連して、地図の凡例Xに対応する地図記号は、2019年に国土地理院が新たに定めたものであり、地図上には地震・津波に関するものを示している。この記号が示す場所を整備・記録することの防災上のメリットを、解答欄③に30字以内で述べよ。
- (3) 地震や火山の発生には地球表面を覆うプレートが関連している。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に関わる大陸プレートの名称を、解答欄①に答えよ。また、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む境界に沿って分布する火山帯の海溝側の境界線を何というか、解答欄②に答えよ。
- (4) 台風や梅雨前線、線状降水帯などによって、短時間で狭い範囲に大量の雨が降る集中豪雨が生じる。これにより、(a)川沿いでは河川の水が堤防からあふれて農地や家屋に浸水したり、(b)市街地では側溝やマンホールから水があふれ出して滞留したりする水害が発生する。このうち、(a)に対して(b)のような氾濫を何というか、解答欄①に答えよ。また、都市化が進むと都市特有の水害が起こりやすくなるとされているが、それはなぜか、解答欄②に40字以内で述べよ。
- (5) 水害や土砂災害が日本で起こりやすい理由について、地形と気象の観点から30字以内で述べよ。

強者の戦略

2026 年度 京大地理 第3問〔解答解説編〕

【解答】

- (1) 地震発生後の急な津波来襲に備えるため、緊急で高所へ退避する場所が必要なため。
(38 字)
- (2) ①防潮堤の建設
②定期的な防災訓練の実施
③過去の災害を教訓とし、市民の防災意識を高めるメリット。(27 字)
- (3) ①北アメリカプレート ②火山前線(火山フロント)
- (4) ①内水氾濫
②緑地減少、地面舗装で、雨水が地中に浸透せず一気に下水道や河川へ流入するため。
(38 字)
- (5) 山地が急峻で河川が短く、梅雨や台風による豪雨が多いため。(28 字)

【解説】

- (1) 相変わらず「災害の特徴」という曖昧な言葉に、書き出しをスムーズに進められない感じがしますね。津波の災害の特徴を想定すると、津波によって家屋や建築物が流され、多くの人命が失われ、さらには膨大な損害が発生し、復興にも時間がかかる、というようなことが考えられます。ここは、「災害の特徴」から少しずらし、「津波の特徴」で書いた方が良さそうです。津波は地震発生から短時間で沿岸に到達する可能性があります。もし、到達までに時間がかかることが予見されていたら、沿岸から遠く離れた内陸部の高台へ避難すれば安心だと思いますが、自家用車がない、自家用車を利用しても渋滞で進めない可能性があるなど、様々な条件ですぐに遠くへ逃げられない可能性もあります。このような状況では、沿岸付近に居住している人々は、沿岸近くで避難するほかなく、浸水リスクが高いと想定されている区域でも津波避難タワーなどが設置されているわけです。こういう問題は、ある種常識的な考え方で解くことはできますが、典型的な問題ではないため、書き終わった後の「これでいいのか？」という不安感はぬぐえないでしょう。



津波避難タワー

- (2) 基本的なことですが、ハード面とソフト面という言葉は大丈夫でしょうか？研伸館では夏期講習中に共通テスト地理の授業で鉱工業の内容を扱います。インドのベンガルールでソフトウェア開発が盛んである、ということを教えるときに、

強者の戦略

ハードウェアとソフトウェアの違いを生徒に聞くのですが、結構答えられない生徒が多いです。京大受験生でも初歩的な単語の理解不足で点を失っている人もいないかと少し思っています。

ハード面とは、「施設、設備、インフラ、建物など、物理的な形のある対策」のことです。災害の規模を小さく抑えたり(減災・防災)、直接的な被害を防いだりする役割を持ちます。ソフト面とは、「制度、情報、知識、教育、訓練など、形のない仕組みや人間の行動に関する対策」のことです。ハード面で防ぎきれない想定外の災害が起きたとき、最終的に人間の命を救う(生き残る)ための役割を持ちます。

ということで、ハード面には防潮堤・津波避難タワー・水門などの津波対策施設の建設・整備を挙げておけば良いと思います。ソフト面はハザードマップの作成・配布や避難訓練の実施などを挙げておけば良いと思います。

凡例Xの地図記号は自然災害伝承碑と言います。共通テストの地理総合で出題されています。自然災害伝承碑とは、過去に起きた津波、洪水、火山噴火、地震などの災害の状況や教訓が刻まれた石碑やモニュメントのことです。この自然災害伝承碑には大きく分けて3つの重要な意義があると思います。まず、災害の記憶を「風化」させず、世代を超えた伝承を行うことができる点です。人間は時間が経つと、どれほど凄惨な災害であっても記憶が薄れて(風化して)しまいます。伝承碑は、被災した当時の人々が「この場所で何が起きたのか、どれほどの被害が出たのか」を数百年先の未来の人々へ確実に伝えるための、タイムカプセルのような役割を果たしています。次に、「具体的な避難行動」の教訓を伝えてくれています。多くの伝承碑には、単なる事実だけでなく、未来の命を救うための具体的なアドバイスが刻まれています。最後に、地域住民の「防災意識(生存率)」を高める効果があります。ハザードマップ(ソフト面)が普及した現代でも、日常風景の中に佇む石碑を見ることで、住民やその土地を訪れた人は「自分のいる場所は過去に災害があった危険な場所なのだ」とリアルに実感できます。これが、いざという時の迅速な自主避難へとつながります。

上記の内容をまとめれば良く、文字数的にも30字はちょうど良い感じがします。ただ、ここで気になるのは、問題文に「自然災害伝承碑」と書いてないことなんですね。この地図記号をちゃんと分かっていますよ感を出すために、「伝承」っぽい雰囲気醸した答案にしておくことをお勧めしておきます。私は「過去の災害を教訓とし」という風に記しました。

(3)急に簡単な問題が来ましたね。北アメリカプレートと火山前線(火山フロント)は基礎的用語になりますので、間違えることはできない問題だと思います。

(4)①(a)は外水氾濫で、(b)が内水氾濫ですね。こちらも基礎的な用語になります。

②こちらの問題は超がつくほどの典型問題でした。昔と今の水害の形成過程の違いを見てみましょう。かつて、今より多く存在していた水田や畑、森林などの地面は、雨水を一時的に蓄えたり、地中へと染み込ませたりする「天然のスポンジ」のような役割(保水・浸透機能)を持っていました。なので、一旦浸透した後で、ゆっくりと河川へ水を排出し

強者の戦略

ていくため、急激な河川水位の上昇にはつながらず、洪水の可能性を下げることでできていました。しかし、都市化が進むと、道路や建物、駐車場などで地面の大部分が覆われてしまいます。雨水が地中に全く染み込めなくなるため、降った雨がそのまま「すべて表面を流れる水(表面流出水)」になってしまいます。そうすると、アスファルトの上を滑るように流れた雨水が、傾斜や側溝を伝って極めて短い時間で下水道や中小河川へと集中します。これにより、雨が降り始めてから排水施設がパンクするまでの時間が圧倒的に短くなってしまいました。そして、近年の気候変動による「ゲリラ豪雨(局地的な猛烈な雨)」など、下水道の設計時の想定を遥かに超える豪雨が降ると、マンホールや雨水マスから水が逆流して街に溢れ出すことになります。つまり都市特有の水害は、「地面が舗装されたことで、雨水が地中に逃げ場を失い、下水道の処理能力を一瞬で超えてしまうこと」が原因です。

- (5) これまた字数を短くしてきましたねー。東大の出題かと思うばかりの要約力のいる問題。みなさんはうまくまとめることができましたか？まず、地形としては新期造山帯に属する急峻なる山脈の存在を考えることができます。気象に関してですが(気候じゃなくて気象)、普通に「温暖湿潤気候(Cfa)」や「降水量が多い」と思っているだけではポイントを外した答案になりますよ。ここは短期間での雨量の多さを考えてください。(4)の問題文に書いてくれていますからね。「台風や梅雨前線、線状降水帯などによって、短時間で狭い範囲に大量の雨が降る集中豪雨が生じる」と。日本は険しい山地があり、国土はそんなに大きくはありません。これにより河川は短くて急となり、流域面積もそんなに大きくはないです。その小さな流域面積に短時間で集中豪雨が降り注ぎ、すぐに河川水位が上昇し、周りへ水害を発生させる、このような流れを想定しながら、30字でまとめましょう。

ここまで読んでいただいた皆さん、お疲れ様でした。次回は恐らく、2026年の京大第4問の解説でお会いいたしましょう。